



株式会社クロスカンパニー代表取締役社長 ◆岡山大学経済学部卒

# 石川 康晴

I S H I K A W A Yasuharu

小学校5年生から一人で服を買いに行くほどの洋服好き。  
14歳で「洋服屋をやる」と決断して以来、  
服飾関係一筋に生きる。  
現在は本社のある岡山と本部のある東京、  
中国間を忙しく飛び回る。

- ▶いしかわ やすはる (42歳)
- 1970(昭和45)年 岡山県岡山市生まれ
- 1994(平成6)年 岡山県にクロスカンパニー創立
- 1995(平成7)年 有限会社クロスカンパニー設立
- 1999(平成11)年 岡山で主力ブランド「earth music&ecology」1号店オープン
- 2000(平成12)年 東京・原宿に進出
- 2004(平成16)年 香港へ同社ブランド展開
- 2008(平成20)年 台湾現地法人設立(台北)
- 2011(平成23)年 中国現地法人設立(上海)
- 2013(平成25)年 岡山大学経済学部卒

## 考え改め組織変換

起業したのは23歳の時、コンセプトは「身の丈」です。貯金だけでやりくりし、岡山市北区表町に4坪の店を出しました。欧州から服を仕入れるセレクトショップでしたが、創業5年目に製造から小売りまで一貫して行う組織に変換これが今のクロスカンパニーにつながっています。

組織変換の理由は社員の大量退職。東京への出店計画を伝えたところ、13人中10人が辞めてしまいました。売上げが伸び悩んだ時期と重なり、社員はこのままでは成功しないと分かっていたのです。これを機に、仕入れから作る会社へ▽高級ではなく手の届きやすい商品▽奇抜ではない定番の服へ▽と自分の考えを改めました。すぐに全店舗で閉店セールを実施。そこで得たお金を岡山駅前の店舗に集約し、現在の主力ブランド「earth music&ecology」を立ち上げました。

## 中国はアパレル五輪

国内販売は順調に伸び、海外に進出。台湾では3年連続、中国も初年度から黒字を達成しました。海外進出の上で痛感したのは「経営者が自ら現地に住む」ことの大切さ。中国には欧州、米国、アジアなど世界中からアパレル企業が進出し、あたかも「アパレル五輪

誰かと何かを、  
共感♡したい。

earth  
music & ecology

## 株式会社クロスカンパニー

本社：岡山県岡山市  
本部：東京都港区  
事業内容：アパレル衣料品、雑貨の企画、製造、販売など  
売上高：639億円(2013年1月期)  
社員数：2,612人(2013年5月末)

店舗数は国内に約550店、海外は中国大陸と台湾に計約60店、タイに6店、シンガポールに2店。日本と米国に子会社も持つ。



クロスカンパニー岡山本社▲

のような状態です。私は去年9月の反日デモ時も中国に留まり、同月に7店舗を出店。北京の店では売上げ目標を達成しました。メディアを通して見る中国では日系不買運動が起きているかのようにしたが、当社のターゲットの20代の若者は気にした素振りがありませんでした。リーダーには情報を本物が偽物が見分ける力が求められます。

## 全人種を尊敬する

海外展開成功の鍵は「ダイバーシティ(多様性) マネジメント」。中国人、台湾人だからこうなどという概念があると能力をうまく引き出せません。宗教、文化、価値観などを尊重するスタンスを見せることが重要。日本人はイメージだけで話をしがちですが、全人種を受け入れ、尊敬する気持が必要だと思えます。

当社にもグローバル人材が1%ほどいます。この社員には英語

かも、ダイバーシティマネジメン  
ト力も求めています。ただ、残り  
99%の社員に英語を覚えろと言っ  
つもりはありません。地元を愛す  
る人は地元で、東京が好きならば  
東京で頑張ってもらえばよく、そ  
れぞれの夢やライフプランを実現  
していくのも私の仕事。デザイ  
ナーを目指す社員がいれば一品番  
だけでもデザイン画を描かせて商  
品化します。モチベーションをい  
かに高めるかも意識しています。

## 岡山からグローバルへ

2020年までは「日中集中戦  
略」を進めます。中国には今年40  
店舗、来年60店舗、再来年からは  
100店舗ずつ出店していく計画  
です。ファッション業界は欧米に  
憧れを持ちがちですが、憧れだけ  
ではビジネスはできません。利益  
を追求し、勢いのある中国、東南  
アジアで生産・交流することがス  
テークホルダー(企業の利害関係  
者)に喜んでもらう一番の近道だ  
と考えています。

3年後には国内外合わせ年商  
2千億円が目標。まずはアジアで  
最終的には世界中で名の知れたア  
パレル会社になります。本社を東京  
に移すつもりはありません。「岡  
山からグローバルへ」。この思い  
を持ちつつ日々励んでいきます。